

献 辞

平木秀作教授（システム科学入門）は、今年3月31日定年を迎えられた。広島修道大学経済科学部では、平木教授のこれまでの本学への貢献に対して心より感謝の意を表し、ここに退職記念号を刊行する。

平木教授は、昭和39（1964）年3月、広島大学工学部工業経営学科を卒業、昭和41（1966）年3月同大学大学院工学研究科修士課程修了後、4月からは広島工業大学機械工学科に助手として勤務、同11月には広島大学工学部に教務員、昭和43年4月からは助手として勤務された。昭和48（1973）年4月には文部省内地研修員として早稲田大学で勉強され、その成果は昭和52（1977）年10月工学博士の学位として実る。昭和56（1981）年4月には広島大学経済学部助教授、昭和58（1983）年4月には同教授に就任された。平成5（1993）年8月には文部省在外研究員として米国ミシガン大学に派遣された。平成13（2001）年7月には広島大学経済学部長に就任される。平成15（2003）年4月には、広島修道大学経済科学部教授（情報システム概論）に赴任され、平成16（2004）年4月からは同大学院経済科学研究科長、平成18（2006）年からは経済科学部長を勤務され、今年3月定年を迎えられた。

広島大学と広島修道大学の2つの大学の名誉教授である。

学会活動においては、日本経営工学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会、日本品質管理学会、日本ロジスティックシステム学会等8つの学会の会員であり、支部長、理事、評議員などを歴任された。特に日本ロジスティックシステム学会では副会長の要職に在られる。

平木教授の研究業績等については巻末「略歴・主要著作目録」に全容を掲載している。著書は17冊、学術論文81編、国際会議発表124件、学内紀要24件の多数に上る。科学研究費等、学外資金の獲得も大変活発で合計15件の内、平成14・15（2002・2003）年度には「自動車製造業の相互補完生産システムに関する調査研究」で基盤研究Bを獲得された。さらに、学会賞等の受賞は平成18（2006）年5月には「日本経営工学会賞」、平成23年（2011）年3月には、ICLS（International Congress on Logistics & SCM Systems）2011 Best Paper Awards など、合計7件を受賞されている。

今年1月8日（火）に開催された最終講義、「自動車の生産管理とシステム科学」で

は、平木教授の研究活動の中で、昭和43（1968）年、東洋工業（現マツダ）の社内研究会に参加されたことがあるとの話があった。これが教授の研究のメインテーマとなる「自動車の生産管理」との出会いであったとのエピソードを紹介された。そこでの研究の成果は「Branch and Bound 法によるバランスング問題の一解法」として昭和46（1971）年、日本工業経営学会誌に掲載された。さらに教授の研究の転機になるのが早稲田大学村松林太郎教授との出会いである。生産ラインの様々な変動要因を吸収する緩衝機能（バッファ）として、(1) ものによるバッファ、(2) 時間によるバッファ、(3) 人の能力によるバッファに注目し、混合ラインの信頼性の経済的維持という極めて現実的なテーマに取り組み、これが昭和52（1977）年10月の工学博士（早稲田大学）授与に結び付いたとのことである。昭和62（1987）年頃からは、自動車の海外現地生産と部品調達について研究を始められ、更に、日本の自動車産業の国際展開という大きな時代の流れの中で、多国間で部品を分担して生産し、相互に供給しあう（相互補完生産）システムについて研究され、現在に至っている。

「モジュラー化」進展の結果、日本の家電が大不調の今日、自動車産業は日本的な「摺合せ」生産方式がまだ有効な領域と言われている。講義の最後に教授は、自動車産業の今後の課題として、(1) 低価格小型車の開発（新興国向け）、(2) 環境対策車の開発（先進国向け）とインフラの整備、(3) 希少資源（レアメタル）の確保、(4) グローバル人材の確保、の4点を示された。教授には日々新たな問題が出てくるこの頃であり、一つの問題から3つの新しいテーマが生じてくるのだそうである。このようなご自身を称して「貧乏性」と申されていたが、歳も歳だし研究面は一段落としたいとの心境を述べられた。

平木教授には、平成15（2003）年、本学大学院経済科学研究科博士後期課程（経営情報システム担当）の研究指導担当教員として本学にお出で頂いた。ご退職までの丁度10年間の間に、ゼミおよび学位論文指導は、学部ゼミ生52名、修士論文指導4名、博士論文指導3名に上る。

最後に、本学経済学部および大学院経済科学研究科の今日の発展に多大な功績を残された平木先生に心より感謝の気持ちを表し、先生のご健康をお祈りして献辞とする。

平成25年6月

経済科学部長
廣 光 清次郎